令和６年度

第61回 道徳教育研究会

～道徳教育の充実をめざして～

開催のねらい

1　知徳一体の教育をめざす

2　教師自身が、よりよい生き方をめざし「思いやりの心」を学び育てる

3　道徳科の充実と学校教育の課題に応える

公益財団法人
モラロジー道徳教育財団・麗澤大学

後援：文部科学省／各地教育委員会

祝　辞

文部科学大臣　盛山　正仁

第61回道徳教育研究会が開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

はじめに、本年１月の能登半島地震により被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、１日も早い復興をお祈り申し上げます。

「特別の教科　道徳」を要とする道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、将来の予測が困難な時代において、子供たち一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、重要な役割を担っていると考えます。

文部科学省では、道徳教育の充実に向けて、道徳科の優れた授業動画等を発信する道徳教育アーカイブの充実や各地域での特色を生かした道徳教育への支援等の取組を進めているところです。

このような中、本研究会が「道徳教育の充実をめざして」を共通テーマとして全国70会場で開催され、実践発表やシンポジウム等を通じ、熱心な取組の成果が全国各地に普及されることは大変意義深いものです。御参加の皆様の取組が、今後の道徳教育の充実と発展に寄与することを心から期待しております。

結びになりますが、貴団体のこれまでの御尽力に感謝申し上げますとともに、今後ますますの御発展と、御参加の皆様の一層の御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

主催者挨拶

道徳教育の使命 ―よき国民性を次代に伝える！

公益財団法人 モラロジー道徳教育財団
学校法人 廣池学園　理事長　廣池幹堂

本年の第61回道徳教育研究会は、「道徳教育の充実をめざして」を共通テーマに、全国70会場で開催します。

昭和38年（1963）に始まった本研究会は、次代を背負って立つべき子どもの教育を重視して揚げた「教育の指導理念を確立する」「立派な教師を得る」「よき環境をつくる」という三つの柱をもとに、教師自身の人間的成長を通じて道徳教育の充実と発展に寄与することをめざしています。これまでにご参加いただきました皆様方、そしてご後援をいただきました文部科学省ならびに各地教育委員会をはじめとする関係各位に、厚く御礼を申し上げます。

国づくりの根本は人づくりにあり、それは道徳教育にほかなりません。我が国の先人たちが長い歴史の中で育んできた「日本が世界に誇るもの」――伝統文化や勤勉・正直・礼節・忍耐・親孝行などの「よき国民性」を次代へ伝えていくことは、道徳教育の使命です。

新しい令和の時代とともに道徳科が実施された今日、子どもたちが「日本に生まれてよかった」「日本で育ってよかった」と思える国をつくっていく責任があります。本研究会がご参加の皆様方と共に「道義国家日本」の再建に向け、道徳教育を推進する上での一助となりますことを願ってやみません。

道徳教育で大切にしたい5つの視点

～モラロジーの観点から～

効果的な道徳教育は、教える側（教師）の人間性が向上し、子どもたちへの感化力が高まってこそ可能となる――。こうした考えのもと、昭和38（1963）年に教育者研究会として始まった道徳教育研究会。教員同士が道徳科の課題を共有し、解決に向けたプログラムを企画していくと同時に道徳的な生き方とは何かを学び、教員自らの人間的成長と教育力の向上をめざします。

1 生きている喜びやありがたさを大切にします。

私たちは、大自然や社会の働きの中で生かされ、育てられ、守られています。このことを自覚し、自然への感謝と畏敬の念をもつことによって、謙虚な気持ちになります。これが互いに助け合い、補い合う心で自他を活かし、社会を支え永続的な発展に尽くそうという大きな志をもつ出発点になります。自らの人生に確かな目的をもった時、家庭や仕事にかける営みに意味を見つけることができます。

2 先人の存在や恩恵に気づき、感謝の心を育みます。

大自然の法則にかなう生き方をめざし、無私の精神で生きたのが、「人類の教師」と呼ばれる孔子、釈迦、イエス、ソクラテスなどの聖人たちです。私たちの生活は、聖人をはじめ、私たちを生み育ててくれた親や祖先、社会や国家を築き発展させてきた先人など、多くの恩人によって支えられています。私たちは、その恩恵に気づき、感謝するとともに、その精神を受け継ぎ伝えていくことが大切です。

3 人を心から大切にする、深い思いやりの心を育みます。

釈迦は『慈悲』、孔子は『仁』という言葉によって「人を慈しむ心」が大切であることを教えました。聖人たちは説くだけではなく、人々の模範になりました。聖人たちは深い思いやりの心で人々に接することで、人々が主体的にこれまでの生き方を改め、よりよい生き方をめざすように導きました。このように、自らが真理を求めて学び、情理円満な人格を養う努力を積み重ねると同時に、誰もが持っている深い思いやりの心を他者から引き出すことが、自他の道徳的成長につながります。

4 「三方よし」の道徳に努め、質の高い道徳を行います。

国際社会における日本への信頼は、先人のたゆみない献身と努力によって築かれたものです。私たちが現在、手にしている権利も、多くの先人によってもたらされたものです。

真の道徳とは、自分も相手も第三者もみな、平和と幸せの内に暮らせるように努めることです。したがって、先人の功績を自覚し、時間的にも空間的にも、大局的な視野から地域や国や国際社会にも目を向けて、自ら率先して質の高い道徳を行い、よりよい社会の実現をめざします。

5 一人ひとりがよりよく生き、幸せで安心できる社会をめざします。

少子高齢化社会や「Society5.0」の到来、グローバル化の一層の進展、環境問題など、私たちは社会の激しい変革の中にいます。また、人はそれぞれに個性をもち、就く職業も様々です。しかし、どのような人生や社会においても大切なことは、人々との生活の中で道徳性を向上させていくことではないでしょうか。誰もがもつ、よりよく生きようとする心を育む努力を続け、自他を真に大切にし、深い思いやりの心で接していくことが、幸せで安心して生活できる社会や未来の発展につながります。

モラロジーって何ですか？

モラロジーとは、モラル（道徳）とロジー（学）からなる学術名で、「道徳科学」を意味します。一般に、道徳は、行為の形式や方法が強調されがちです。モラロジーでは行為はもちろん大切にしますが、それ以上に行為の基になる心づかい（心の在り方・考え方）を重視しています。

道徳の実行によって、日々の“心づかいと行い”を改善し、生きがいと喜びに満ちた人生を築き、一人ひとりが高い品性を培い、その心づかいが家庭や職場、社会、国家へ広まっていくことによって、真に心豊かで平和な世界の実現につながるものと考えています。

知徳一体の教育とは何ですか？

医療や情報、科学技術などの分野のように、知識が進めば進むほど、それらをいかすための高い道徳性が必要とされています。一方で、優しさ、勇気、愛情、正義感、責任感などの、一般によいとされる性質も、それを真に生かす知識がなければ、よい人間関係を育て、円満な社会を築くことはできません。

昭和３８年に教育者研究会を始めたモラロジー研究所の廣池千英・第二代所長は、「教育とは、人間の心に仁愛の精神を植つけることである。この精神の上に現代の科学と知識と技術を習得してこそ、はじめて学問というものの光が出るのである」と述べています。

道徳教育研究会では、知識と道徳が一体となった学問、教育のあり方を探求します。

◆ 連絡・問合せ先 ◆

生涯学習本部　学校教育センター

〒277-8654　千葉県柏市光ケ丘2-1-1

TEL. 04-7173-3219　FAX. 04-7176-1177

E-mail:kyoiku@moralogy.jp
https://www.moralogy.jp